

平成29年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証シート

全体の概要

大阪市立 堀江 中学校

生徒数

182

平均値

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ハンドボール 投げ	体力合計点
男子	28.13	27.39	43.20	50.71		80.75	8.36	184.48	19.23	40.09
大阪市	29.00	27.45	41.55	51.39	409.58	84.05	8.10	189.74	20.39	41.00
全国	28.89	27.45	43.20	51.89	391.23	85.99	7.99	194.54	20.56	42.11
女子	23.03	24.20	47.04	45.20		53.73	9.35	150.68	12.20	45.37
大阪市	24.11	23.81	44.70	46.89	303.77	57.92	8.95	165.67	13.06	49.27
全国	23.82	23.73	45.86	46.76	287.36	59.14	8.80	168.57	12.96	49.97

結果の概要

体力合計点の平均値を昨年度との比較で見ると、男子は40.65→40.09点で0.56ポイント、女子は47.63→45.37点で2.26ポイントダウンした。また、全国との差も男子は1.48→2.02ポイント、女子は1.93→4.6ポイントへと拡大し、全体的に体力・運動能力の向上の課題は多い。

しかしながら、男女とも長座体前屈については大阪市、全国よりも高く、女子の上体起こしは全国よりも0.47ポイント高い数値を示している。また、男女ともに課題であった全身持久力を示す20Mシャトルランについては、全国との差が男子は11.08→5.24ポイント差、女子は5.79→5.41ポイント差に縮小し、わずかながらも改善が見られた。スタミナや粘り強さを身に付けさせるため、保健体育の授業の中で、全身持久力を高める運動とともに、「動きを持続する能力の向上」を目的とした筋力トレーニングなど、全身から汗がにじみ出る運動を継続して取り組んだ成果が表れている。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

体力・運動能力の課題を克服するために、保健体育の授業の中で、ランニングや準備運動とともに、「動きを持続する能力の向上」を目的とした筋力トレーニングなど体幹を鍛える運動を継続して取り組んでいく必要がある。

また、小中連携の一環として取り組んでいる小学生の「部活動体験」や「小学校への出前授業」を実施し、入学後の運動やスポーツへの興味・関心を高め、部活動に所属し日常的に継続して運動やスポーツに取り組む習慣を定着させ、体力向上をめざしていくことも重要である。

規則正しい生活習慣や望ましい食習慣の確立が健康的な身体を育み、よく体を動かし、運動やスポーツに意欲的に取り組むことで日常生活を豊かにする。そのことが結果として体力の向上につながっていくことを理解させる。また、体力向上に向けては、保健体育の授業を中心に他教科とも連携してあらゆる場面で、生活習慣と食習慣の大切さを生徒へ伝えとともに、保護者集会等で生活習慣と食習慣の取組（早寝、早起き、朝ごはん）について、さらに保護者に啓発し、協力を求めていく。また、ボランティア活動に一人一人が自らすすんで参加できるよう、学校としての体制や仕組みを構築し、子どもたちの自尊感情を育成する。